

『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第1号発行

ろくおん通信

No. 135

発行日 2004年6月15日
発行 盲人情報文化センター
録音製作係

※今回は、シリーズく聴いてわかる録音図書を作る為に>はお休みです。

Q & Aコーナー

◎●○△▼◇◆※※◆○

Q 音訳していてどうしても調べがつかなくて、著者に問い合わせをしたいと思うのですが、「著者には問い合わせはしないように」と言われます。どうしてでしょうか。

A 音訳者が著者や出版社へ問い合わせするケースは多いようです。盲人情報文化センターでは、原則として著者や出版社への問い合わせはしないようにしています。

音訳者はできるだけ正確に読もうとして、わからないところは著者に聞いて読もうとするからでしょう。「音訳をしているが、ここの読み方がわからないので教えて欲しい」と手紙などで質問された著者には、「わたしは視覚障害者の為に活動しているのだから、教えてくれるのは当然、といった姿勢が感じられる」と苦情が出されたことがあり、著者への質問は控えるようにしています。著者の方が皆そうだとは言えませんが、著者への質問が読み方の答えを求めただけのものであれば迷惑がる方もおられるでしょう。

基本は図書館などで調べのつかないもので、どうしても必要なものは館を通して質問をするようにしましょう。その際、質問するかどうかは館が判断することになるでしょう。

Q 本文には「はじめに」や「あとがき」などがあっても、目次では紹介していないときはそのまま読んでいます。いいのでしょうか。

A 視覚障害者にとっては、「目次」は全体の内容を知る大事なところですよ。晴眼者は「目次」に「はじめに」や「あとがき」などが紹介されていなくても容易に知ることができます。「あとがき」などを先に読む人もあるくらいです。また「あとがき」が、長い年表などの後にあたりすると、知らずに聞かずにやめる場合もあるでしょう。目次に紹介されていなくても、「はじめに」や「あとがき」などがある場合は「目次」でも紹介する方がよいと思います。

尚、テープ図書の場合、長い年表などの後に「あとがき」がある場合、「あとがき」を先の読むこともあります。

デイジー編集についての

Q&A

Q 音訳グループのものです。そろそろデジタル録音も検討しています。カセットテープも作りながら、デイジー図書の作成や過去のテープ図書もデジタル化して保存できればと考えています。何かよい方法があれば教えてください。

A

カセットテープも作りながら、デイジー図書も作り、過去のカセットテープのデジタル保存も、デジタル録音もはじめたい、などと考え始めているグループがこのところ増えています。

グループで一斉にカセット録音からデジタル録音に切り替えるのは大変です。とりあえず、できるところから始めるとすれば、まず、「PTR1」（プレクストーク・ポータブルレコーダー 定価89,800円（消費税込み）：デイジー図書が聴け、録音もできるデジタル録音機）を購入することも一つの方法でしょう。

「PTR1」は今年度から視覚障害者の日常生活用具として認められ、最近注文

しても1ヶ月以上待たされるようですが、この「PTR1」を購入すると編集ソフト「PRS」が付属してきます。このソフトはデジター図書を作成するソフトです。このソフトをパソコンにインストールすれば「パソコン録音」も可能になります。

「PTR1」は、

- ①デジタル録音機として使えます。録音したCDはプレクストークで聴くことができます。
- ②過去のカセットテープをラインインで音声を取り込み、CDに記録して保存しておくこともできます。

付属の編集ソフト「PRS」は

- ①カセットの音声をパソコンに取り込んでCDに保存してと置くことも可能。(但し、CDに保存したデータをカセットにコピーするのは大変ですが・・・)
- ②さらに、取り込んだ音声データを編集してデジター図書を作成することができます。
- ③デジタル録音機として使用することもできます。後追い録音の機能はありませんが、上手に使えると十分つかえます。

Q デジター編集で本文が空白のところがあり、ページチェックを入れないと「ページがありません」とコメントしますが、なにかよい方法はありませんか。

A 原本にはページがあるが、空白の場合、ページチェックしないで次のセクションでページ付けをして編集すると、飛ばしたページのところは「ページがありません」とコメントします。これを解消するには、無音フレーズを切り出し、その無音フレーズにページチェックすれば「ページがありません」というコメントはしなくなります。仮に2ページ分の空白ページがある時には無音フレーズを2つに分割し、それぞれにページチェックをします。

Q デイジーの編集で1フレーズ化する方がいいものどんなケースですか

A デイジー編集で1フレーズにした方が便利なものとしては、

①〇〇著、〇〇（書名）までを1フレーズ化する

※書名を先に読む場合は1フレーズにする必要はない。

②目次のそれぞれの項目（〇〇<項目>・・・〇〇ページ、までを1フレーズにする）

③本文中にでてきた項目（目次の項目と同じ）

④索引（項目と〇〇ページまでを1フレーズ化する。）

⑤登場人物紹介（一人ひとりの紹介が長いものはグループの方がよい場合もある）

⑥参考文献や初出誌一覧

⑦年表など箇条書きになっているようなもの

※④や⑦など長いものは、セクションやグループなどを使い、検索を容易にするなどの工夫をする必要もあります。

『つかいこなせば豊かな日本語』よ

「初孫」の読み

（答）「初めて生まれた孫」のことを「ういまご」、又は「はつまご」と言う。

「うい」は「初めての、最初の、生まれて初めて」の意を添える成分で、初冠^{ういとうぶり}、初琴^{ういこと}、初産^{ういざん}、初陣^{ういじん}、初奉公^{ういほうこう}などと用い、「事に当たって初心で、不慣れでごちない」とういのが、もとの意味である。

「はつ」は「ある一定の周期ごとの初回、たとえば一日、一年などの初め」の意であることが多く、初午^{はつま}、初荷^{はつに}、初春^{はつはる}、初日^{はつひ}、初参り^{はつまい}、初詣^{はつもうで}などがある。本来の意味は、「季節の最初にちらっとあらわれる自然現象」のことで、初草^{はつくさ}、初霜^{はつしも}、初鶯^{はつうぐいす}、初鯉^{はつがづお}などと用いる。ただし、「初節句」や「初舞台」などは、一生涯における初めての意味である。昭和二十三年の「当用漢字音訓表」には、「初」に「うい」の訓がなかったので、「うい孫」と書くことになっていたが、昭和四十八年の「音訓表」に「うい」が掲げられており、「初陣、初々しい」の用例が見られる。

NHKの『放送用語ハンドブック』には、「[ハツマゴ]……現代ふうの言い方。[ウイマゴ]……昔ふうの言い方。」の注がある。なお、「初産」は、[ウイザン][ハツザン]の両様の形を認めている。

「早急」は「サッキュウ」か「ソウキュウ」か。

（答）「サッキュウ」が標準的である。

新音訓表の「表の見方及び使い方」の八に、「他の字又は語と結び付く場合に音韻

上の変化を起こす次のような類は、音訓欄又は備考欄に示したが、すべての例を尽くしているわけではない。」として、「納得（ナツク）」その他の例が挙げられている。歴史的仮名遣いでは、「ナフトク」であり、これが音韻上の変化を起こして「ナツク」となったと考えられる。同じような例として、

十銭 シフセン → シッセン
 執権 シフケン → シッケン

などがある。

新音訓表でも「早」の音に「ソウ」、一次下げて「サツ」を掲げている。この一次下げて示した音訓は、「特別なものか又は用法のごく狭いもの」である。例欄に、「早速」「早急」が載せてある。「早速」は、だれしも「サツソク」と読むであろう。同様に「早急」も「サツキユウ」と読むことが行われてきた。文字面から「ソウキユウ」と読むのがかなり広く行われているが、「サツキユウ」と読むのは根拠のあることなのである。国語の諸辞典を参照しても、「さっきゅう」を本見出しとし、「そうきゅう」のところでは、「さっきゅうを見よ。」という形にしてあるものが多い。ちなみに、NHKでは、「サツキユー」と発音することになっている。

「施行」は「シコウ」か「セコウ」か。

（答）「シ」は漢音、「セ」は慣用音である。したがって、普通には、「シコウ」と読んで、主に公共機関の事業を行うことに使う場合が多い。ただ、法律方面で、「執行」と区別するため、「セコウ」と読む慣用もある。一方、工事を実際に行う「施工（シコウ）」を「セコウ」と読み、「施行（シコウ）」と区別する習慣もある。

NHKでは、

シコウ	施行
セコウ	施工（工事）

と区別している。

ちなみに、「せぎょう」と読めば、仏教の用語で功德のため、僧などのために物を施すことの意になる。

「情緒」は「ジョウショ」か「ジョウチョ」か。

（答）「緒」は、漢音「ショ」、慣用音「チョ」である。従来「情緒」について「ジョウショ」ともいい、「ジョウチョ」ともいわれたが、昭和二十三年の「当用漢字音訓表」では、「緒」に「チョ」という音を掲げていなかったため、「ジョウショ」だけが「情緒」と書かれることになっていた。むしろ、この読み方のほうが伝統的な読みなのである。しかし、世間一般には「ジョウチョ」が慣用的になっていたため、今回の音訓表では「チョ」も取り上げ、例欄に「情緒」が挙げられている。ただし、備考欄に「『ジョウショ』とも。」と書き加えられ、両方の読み方のあることも指摘されている。

NHKでは、「ジョーチョ」と発音することになっている。

各種 勉強会のお知らせ

第11回 録音図書製作グループ音訳研究会のご案内

近畿視情協録音製作委員会主催の第11回「音訳研究会」が下記の内容で行なわれます。

今回は、今年行われた「専門図書音訳講習会の近代文学コース」を担当された古典チームの工藤和子氏を講師に近代文学の音訳について研修を行います。地元の図書館に所属されていないグループの方で参加を希望される方は、グループ名、参加者名、電話番号等を記入の上、下記までファクスして下さい。尚、参加者は1グループ、2名までとさせていただきます。

※申込先：Fax 06-6441-0039

内 容

日 程： 2004年7月21日（水）

13:30～15:30

場 所： 盲人情報文化センター 9Fホール

費 用： 無料

人数制限： グループリーダーを含めて1館（2～3名まで）

内 容： 1. 13:30～15:00

近代文学の音声訳について

工藤 和子氏（盲人情報文化センター古典チーム）

2. 15:00～15:30

・グループの交流・懇談

・次回の日程と内容の確認

プライベート製作チーム勉強会（毎月第4水曜日 1時半～3時）

7月21日（水） ・ 図表の音訳
・ プライベート図書依頼
※共同で製作する資料あり

8月25日（水） ・ 図表の音訳
・ プライベート図書依頼

9月22日（水） ・ （未定）